

長野工業高等専門学校

長坂 明彦(長野工業高等専門学校)

独立行政法人 国立高等専門学校機構 長野工業高等専門学校 (National Institute of Technology, Nagano College) (長野高専) は、1963年(昭和38年)4月に開校して以来、以下のような変遷をたどってきた(表1)。

表1 長野工業高等専門学校の変遷

1963年	(昭和38年)	4月	機械工学科(2学級), 電気工学科設置
1967年	(昭和42年)	4月	機械工学科(2学級), 電気工学科, 土木工学科設置
1989年	(平成元年)	4月	機械工学科(2学級), 電気工学科, 土木工学科, 電子情報工学科設置
1992年	(平成4年)	4月	機械工学科, 電気工学科, 土木工学科, 電子情報工学科, 電子制御工学科設置
1994年	(平成6年)	4月	土木工学科を環境都市工学科に改組
2003年	(平成15年)	4月	専攻科(生産環境システム専攻, 電気情報システム専攻)設置* 電気工学科を電気電子工学科に名称変更

*: これに伴い、従来からある学科を「本科」と総称するようにした。

本科(準学士課程)は各学科(機械工学科(M科), 電気電子工学科(E科), 電子制御工学科(S科), 電子情報工学科(J科), 環境都市工学科(C科))とも1学年各40名で、現在、5学科からなる高専で、専攻科(学士課程)は本科設置から40年を経過した2003年(平成15年)に2専攻(生産環境システム専攻, 電気情報システム専攻)として設置され、2019年(平成31年)3月に本科にとっては第52期生が準学士(工学)として卒業し、専攻科にとっては第15期生が学士(工学)として修了することになる。なお、本科の教育課程は、2015年(平成27年)度から4・5年次の科目に導入した学修単位で大きく変わったが、本科の体制は1992年(平成4年)以来変わっていない。

1. 本校の所在

長野高専は、長野県長野市大字徳間716に位置する高等教育機関である。通称は『長野高専』(NIT, Nagano College), 『高専』等と呼ばれて地元にも愛され、最寄りのバス停は高専前バス停である。

電車の場合は、新幹線長野駅から2駅目のしなの鉄道 北しなの線「三才駅」下車徒歩約15分に長野高専がある。また、乗用車の場合は、長野駅より8km, 約20分, 須坂長野東ICから車で約20分の位置に長野高専があることから、アクセスに比較的恵まれている。

図1に管理・一般科棟および電子情報工学科棟を示す。左側の3階建て建物が管理・一般科棟、右側の5階建て建物が電子情報工学科棟である。また、図2に地域共同テクノセンター、学生寮、専攻科棟および技術教育センターを示す。左側から2階建て建物が地域共同テクノセンター、3階建て建物が男子学生寮（雄風寮）、3階建て建物が専攻科棟および右側の建物が技術教育センターである。本校は2008年（平成20年）から2010年（平成22年）にかけて大規模改修・耐震補強工事が行われた。長野高専の周辺は、飲食店および日用生活用品店等が充実しており、日常生活に困ることはない。



図1 管理・一般科棟（左）および電子情報工学科棟（右）

2. 学校の概要

長野高専は、「優れた技術者は、優れた人間でなければならない」との教育理念を掲げている。本校は、教員数 79 名（平成 30 年 4 月 1 日現在）、本科学生数 1009 名（平成 30 年 4 月 1 日現在）、専攻科学生数 63 名（平成 30 年 4 月 1 日現在）の高専です。

本校では本科 1・2 年生のホームルームを 5 学科の枠を外した混合学級にしている。本科 3～5 年生のホームルームは 5 学科の専門学科に分かれる。実務訓練（短期インターンシップ）を本科 4 年次に行い、企業等実務を体験し将来の進路決定に役立てている。そして、各学科本科 5 年次に卒業研究を行う。

また、専攻科は2専攻に分かれる。学外実習（長期インターンシップ）を専攻科1年次後期に行い、特別研究を専攻科1～2年次に継続して行うことができる。

本科5年生の約半数は、国公立4年制大学の3年次に編入している。長野高専専攻科への進学も多く、難関大学に編入している学生もいる。就職に関しては有効求人倍率が30倍程度であり、就職率および進学率は100%に至っている。進学と就職の比率は、およそ1：1である。また、専攻科2年生の半数以上は、就職するが、国公立4年制大学の大学院に進学している。就職率および進学率は100%に至っており、難関大学院に進学している学生もいる。



図2 地域共同テクノセンター（左）、学生寮（正面奥）、専攻科棟（正面右奥）および技術教育センター（右）

3. 学生生活

本校での主な部活動には、陸上競技部およびバスケットボール部などの運動系、航空・ロボット製作部および吹奏楽部などの文化系などがある。航空・ロボット製作部のようば物づくりに取り組んでいる部では、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンテスト、ソーラーカー大会などへ積極的に参加している。

本校では学園祭（工嶺祭）も実施している。工嶺祭ではクラス企画や出店など盛大に行われ、参加する学生は大いに熱中して取り組んでいる。

本校で授業時間は、90分授業である。また、長野県は本州内の都道府県の中でも3位の面積（13,562.23km²）となる広い県であることから、遠隔地に自宅のある学生も少なくなく、この

ような学生は寮で生活している。本校には、雄風寮（男子寮）および清風寮（女子寮）の2つの寮があり、この2つの寮から全校1072名の学生のうち、400名程度の学生が登校する（図2）。

4. 地域や社会との連携

本校では、地域共同テクノセンター（図2）を設置し、現在358会員（企業：333、団体：13、個人：12）（平成31年2月21日現在）の地元企業などの会員を持つ長野高専技術振興会とも協力して、地域の産業界との連携にも力を入れている。地域共同テクノセンターでは、年間を通して、多岐にわたる各種セミナー（平成30年度：43講座、受講者数1,241名）が実施される。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.39

(C)著作権:2019 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門